

登録コード:MH183100 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	基礎看護学実習（臨床判断）【22M以降】 Guide to Clinical Practicum in Fundamental Nursing (Clinical Judgment)			
担当教員	浅野 美礼 他 小林 千世・山口 大輔・上原 文恵			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/ 1 年 後期(後半) 木曜・不定期			
単位数、講義室	1 単位	保健学科 3 1 1 講義室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	授業の達成目標		
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護			
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	入院患者の疾患及び身体的の側面から理解する方法を説明できる。		
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	看護師と患者の関りや日常生活援助を通して入院患者の療養生活の実際を理解し、課題解決の方法を理解する。		
	問題解決力 保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに関係者に伝えることができる。	看護師のフィジカルアセスメントおよび看護ケアに関する臨床判断を理解する。		
	対人関係形成・協働力 保健・医療・福祉の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、看護専門職者として協働的に役割を担うことができる。	医療の現場における、専門職の責任やチーム医療の協働活動の実際を理解する。		
	プロフェッショナリズム 看護専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。	病棟看護師の看護専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を理解し、人々の健康に向けて省察的・自律的に行動することを理解する。		
授業で学べる「テーマ」	その他			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	学生を対象としたフィジカルアセスメント、シュミレーターを用いたフィジカルアセスメント、肉眼的解剖実習の見学、病棟看護師のシャドウイング等の実習を行い、対象を疾患及び身体的側面から理解する方法、入院患者に対する看護師のフィジカルアセスメントと臨床判断の実際、病棟看護師の役割・機能を学びます。 本授業は、1年次前期に学んだ「看護学概論」「コミュニケーション方法論」「基礎看護学実習」1年次後期前半に学んだ「コミュニケーション方法論」の知識を前提とし、2年次後期の「看護方法論」の内容と相補的に学んでいくことになります。そして、本授業の内容は、2年次に学ぶ「基礎看護学実習」「看護方法論」における重要な基礎知識となります。 本授業は、教員の医療機関における看護師・医師としての実務経験を活かして実習を行います。			
授業計画	【実習前オリエンテーション】（2026年11月17日4限） 基礎看護学実習の目的・目標および概要について 【実習 1 日目】（2026年12月3日） 看護師のフィジカルアセスメント 医系教員の臨床講義 学内カンファレンス 【実習 2 日目】（2026年12月10日） 医系教員のフィジカルアセスメント実習 学内カンファレンス 【実習 3 日目】（2026年12月17日） 病棟看護師のフィジカルアセスメント実習 Aグループ 肉眼解剖学実習の見学 Bグループ 学内カンファレンス 【実習 4 日目】（2026年12月24日） 肉眼解剖学実習の見学 Aグループ 病棟看護師のフィジカルアセスメント実習 Bグループ 学内カンファレンス 【実習 5 日目】（2027年1月7日・1月14日） 病棟看護師のフィジカルアセスメント実習 Aグループ（1月7日） Bグループ（1月14日） 学内カンファレンス 【第 6 日目】（2027年1月21日）			

授業計画	まとめ報告会 授業アンケート
授業の進め方	1. 看護師のフィジカルアセスメント 看護師のフィジカルアセスメントの実際（原理、方法、安全・安楽、倫理的配慮、評価、患者への説明）、自立・安全評価の実際について説明を受け、グループワークで検討します。 2. 医系教員の臨床講義 医系教員からバイタルサインを活用した身体診察について説明を受け、グループワークで検討します。 3. 医系教員のフィジカルアセスメント実習 医系教員からフィジカルアセスメントの説明を受け、シュミレーターを用いてフィジカルアセスメント（バイタルサインの測定、呼吸・循環の診察）の実際を体験学習します。 4. 肉眼解剖学実習の見学 理学療法学・作業療法学が履修する「肉眼解剖学実習」を見学します。御献体を通して、人体の構造と機能を具体的に理解し、看護師が行うフィジカルアセスメントに応用していきます。 5. 病棟看護師のフィジカルアセスメント実習 病棟看護師のシャドウイングを行い、バイタルサイン測定やフィジカルアセスメントの実際、各種ケア（治療、処置、看護ケア）実施時における看護師の臨床判断の実際を参加観察します。 6. 学内カンファレンス 実習での学びをグループメンバーで共有します。 7. まとめ報告会 グループに分かれ、「入院患者の疾患及び身体的な側面から理解する方法」「学生を対象としてフィジカルアセスメント」「入院患者に対する看護師のフィジカルアセスメントおよび看護ケアに関する臨床判断」についてまとめ、報告します。
テキスト、教材、参考書	看護学概論 ・ 、コミュニケーション方法 ・ 論、看護方法論 で用いたテキストおよび参考書、配布資料
成績評価の方法	実習要項とともに配布する実習評価表を用いて実習内容、レポート、実習態度により各項目4段階で評価し、総合的に判断します。評価の方法は以下のものです。 ・ 実習の内容及びレポートの内容から、実習目標の到達度を評価します。 ・ 課題レポートの記述内容から、患者に実施されている看護の実際、看護への理解の深まりを評価します。 ・ 患者との関わり、カンファレンスへの参加態度、グループメンバーとの関わり、患者及び臨床指導者との関わり、個人情報法の取り扱いにより看護学生としての実習態度を評価します。
成績評価の基準	実習の内容：実習評価表を用いて目標への到達度を評価します。 90%以上の到達度を「秀」 80% " 「優」 70% " 「良」 60% " 「可」 とし、60%に到達しない場合は、追加課題への取り組みや成果の内容によって再評価します。 実習後課題レポート： 課題に対応した適切な内容である。 自分の考えを説明できている。 自分の考えの根拠を説明できている。 指定された書式であり、記載項目に不足がない。 既存の内容に依存していない。 期限内に提出している。 これらを満たしており、自分の考えを説得力を持って明確に説明されているレベルであれば「秀」。 ～ を満たしている場合は「優」。 ～ にやや課題が残る場合は「良」。 ～ に課題が残る場合は「可」。 総合して、秀：100～90点、優：89～80点、良：79～70点、可：69～60点と評価する。
事前事後学習の内容	事前学習： 実習に必要な、看護方法論 で学んだ看護技術、解剖学やフィジカルアセスメントについての学習を行ってください。 事後学習： 実習での学びをグループごとにまとめ、報告会で発表します。 報告までの時間を使って、グループで課題をまとめてください。 自分以外の学生の報告からの学びについてもレポートに記述します。 本科目の単位の習得に、45時間の学習が必要です。

学生へのメッセージ並びに質問 ，相談への対応	・実習の日程は提示の後、若干の調整する可能性があります。 ・教員は、信州大学医学部附属病院の指導者と協力体制を取りながら、指導にあたります。実習について、学生から相談を受けます。 ・担当教員のオフィスアワー：随時対応しますが、メール等で事前に連絡してください。 浅野美礼メールアドレス：millet@shinshu-u.ac.jp ・小林千世准教授、山口大輔助教・上原文恵助教のほか、実習担当教員も対応します。 小林千世メールアドレス：ckobaya@shinshu-u.ac.jp 山口大輔メールアドレス：dyamaguchi@shinshu-u.ac.jp 上原文恵メールアドレス：fumieue@shinshu-u.ac.jp
-----------------------------------	---